

KOKUGO

受賞作品 | 国語部門

〈総評〉

海洋汚染や動物愛護など、社会問題を取り上げた作品が多く見られました。また、世界情勢の影響を受け、戦争や紛争について論じている作品も多かったように思います。

授業やメディアでSDGsが取り上げられるようになり、日常的に社会問題に触れることが増えました。誰もが世界の動きに関心ではられません。授業を通して、あるいは自分から興味を持って、社会問題に取り組もうとする姿勢は素晴らしいと思います。社会のひずみを発見し、問題提起をすることも重要です。

「国や自治体はもっとこうすべきなのではないか」「世界中の人々がもっとこうすればみんなが幸せになれるのではないか」このような視点は非常に大切ですが、作品コンクールではそのもう一歩先、「では、自分はどうするか」を論じているかどうかを重視しています。

今後は問題提起からさらに一歩踏み込んだ作品に出会えることを期待しています。



文部科学大臣賞

「よかったなあ」がつながる世界

秋田県 大仙市立大曲西中学校 1年
佐藤 ひより



子どもの文化・教育研究所 理事長賞

未来を見据える

福島県 いわき市立好間中学校 2年
田仲 楓子



一般社団法人 日本児童文芸家協会 理事長賞

希望をくれた一冊の本

大阪府 高槻市立冠中学校 2年
道端 雄翔



中央出版株式会社 社長賞

僕と生成AIの夏休み

東京都 渋谷教育学園渋谷中学校 1年
村山 珀也



優秀賞

水のふしぎはっけん！！

愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 2年
武山 侑愛

カナちゃん

岡山県 津山市立院庄小学校 5年
中島 詩織

「トライ」アスロン

宮城県 宮城教育大学附属小学校 5年
海老澤 可憐

「よかったなあ」がつながる世界

佐藤 ひより | 秋田県 大仙市立大曲西中学校 1年

「よかったなあ」がつながる世界
大仙市立大曲西中学校 1年 佐藤 ひより
「お母さん、もう私は中学生だよ。」
夏休み、私の横に無理矢理割り込み寝転んで
きた母。小さい頃のようには、手には一冊の本。
「ママ、もうじやない、まだ中学生よ。」
はいはい、読み聞かせをしてあげようわ。
二人で大笑いしながら、母はその一冊をすっ
と持ちあげた。もう、しかたがないなと思っ
ながら、涙しんでしまおうとのぞきこんだ。
「よかったなあ／＼草や木が／＼はくらの／ま
わりについてくれて、まどみちおさんの詩が音
になる。この言葉に力強さを与えるように、
濃い青緑色の木々の下に多くの動物、色とり
どりの花の絵が広がった。私は絵本が好きだ。
大きくなるにつれ、新たな絵本の力にひきつ
けられていく。両面に広がる大きな絵。そこ
に短く添えられた言葉。それなのに言葉の量
に比例しないほどの広がりがある。まどさん
の言葉を読む母の声と共に、私の心は美しい

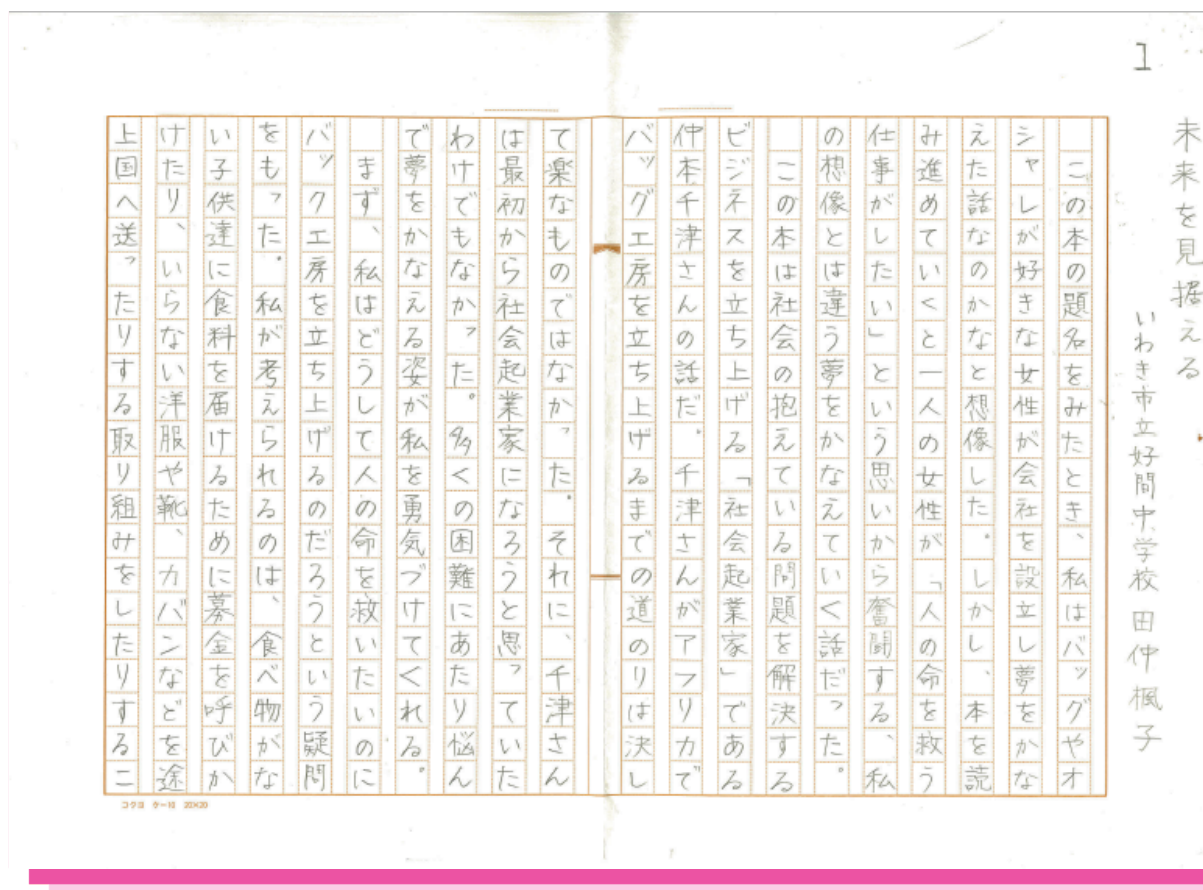
〈選考理由〉

まど・みちおさんの詩『よかったなあ』は全ての存在の固有な輝きと尊さ、大いなるものに生かされている喜び（至福）を語っており、日常に溢れる幸せな瞬間をやわらかく切り取った作品です。ひよりさんのお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん一人一人の描写から、ひよりさんが家族からたくさん愛されて育ったことが伝わり、読むほうも自然とあたたかな気持ちになります。自身の感情や何気ない会話の文章ひとつにも、ひよりさんの豊かな感性が表れており普遍的な物事を美しく描き出しています。詩はほんの数行の作品ですが、読む人一人一人が自らの経験と共鳴させ自由に解釈でき、豊かに深めることができるところが魅力のひとつです。それは誰の感情をも否定しないということでもあります。

不安な言葉を唱えれば不安な気持ちになり、やさしい言葉を唱えればやさしい気持ちになる。まどさんの詩の表す世界とメッセージがひよりさんの世界と確かに「つなが」っています。これからもひよりさん自身の大切な言葉を、大切な人に伝え続けていってください。（課題図書『よかったなあ』まど・みちお 著 理論社）。

未来を見据える

田仲 楓子 | 福島県 いわき市立好間中学校 2年

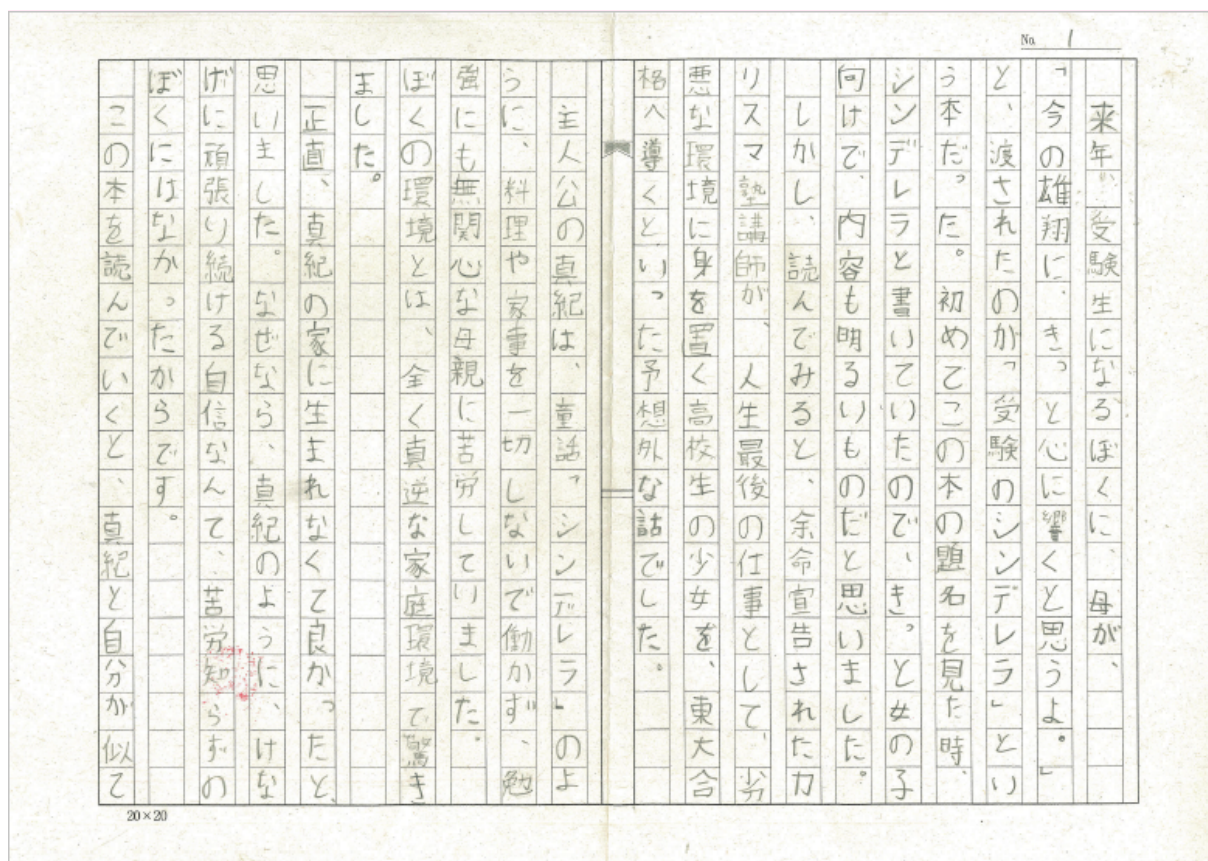


〈選考理由〉

課題図書は、「社会起業家の仲本千津さんが、アフリカのウガンダでバッグ工房を立ち上げるまで」を描いた記録・伝記的作品。読書感想文ではただ内容の感想を述べるのではなく、作者の生き方や信念・行動と葛藤、背景等との「対話」を通し自身の中に眠っていた記憶や感情、価値観を呼び覚まし、再構成したり新しい発想に辿り着くことが重要です。楓子さんは千津さんの考えに疑問や課題意識を持ちながら理解を深め、現代に生きる女性や私たちの本当の意味での自立・自律した幸福な生き方について考察している点が高評価につながりました。楓子さんははじめ、千津さんが「人を救いたい」といいながら、なぜアフリカでバッグ工房を立ち上げるに至ったのかという点に疑問を抱きます。アフリカのウガンダにはシングルマザーが多く、千津さんはそういった方々のためにバッグ工房を立ち上げています。楓子さんはそこで彼女たちの自立を促すことで、女性たちだけではなく周囲にいる子どもたちを含めた生活レベルの向上に寄与することが千津さんの狙いだったのだと気付きます。人は行動を起こすとき、目先の利益や短期的な成果に気を取られがちです。しかし、本当に必要なのは長期的な視点です。「ミシンの音」の変化に気づいた楓子さんには、きっと千津さんの想いも伝わっていると思います。ぜひ自分らしく輝ける場所を見つけてください。（課題図書『アフリカで、バッグの会社はじめました: 寄り道多め、仲本千津の進んできた道』江口絵理 著 さ・え・ら書房）

希望をくれた一冊の本

道端 雄翔 | 大阪府 高槻市立冠中学校 2年



〈選考理由〉

来年に高校受験を控える雄翔さんは、お母さんから勧められた『受験のシンデレラ』という本を読んで、強い感動を覚えます。余命わずかな塾講師の五十嵐先生と、劣悪な環境下で生きる高校生の真紀が二人三脚で東大合格を目指すというストーリー。一見すると、自身に重ねて想像することは難しいかもしれませんが、雄翔さん自身も、物語の登場人物と自分とは、正反対の環境に身を置いていると考えていました。しかし、途中で雄翔さんは学業に思い悩んだりしている面で自分と真紀が似ていることに気がきます。また、文中では自身の切実な生死をさまよった危機的な体験についても触れており、「現場に駆け付け、必死に心臓マッサージをしてくれた母」の存在、そして「2カ月間、寝たきりの入院生活」を通して、「諦めずに、努力することは、いつか自分の人生を変えることになると思うし、人のために尽くすことは、自分の人生を変えたいと思います。」と雄翔さんの動いた心を丁寧に書き留めているのが印象的です。この本が本当に伝えたかったであろうことを、雄翔さんが自然と吸収している様子がうかがえます。自分が本当につらいとき、他の人にやさしくすることはとても難しいことです。それでも、誰かのためにがんばろうと思う心は、とても美しいです。本を通して芽生えた気持ちを、これからも大切にしてほしいと思います。将来、雄翔さんの夢が叶うことを強く願っています。(課題図書『受験のシンデレラ』和田秀樹 著 小学館文庫)

僕と生成AIの夏休み

村山 珀也 | 東京都 渋谷教育学園渋谷中学校 1年



〈選考理由〉

近年、生成AIは日ごとに目覚ましい進化を遂げています。生成AIというと、その「利便性」と「危険性」の両方が注目されますが、珀也さんは「作文のコンクールに生成AIを使用することの是非」について鋭く切り込んでいます。作文や論文に生成AIを用いることに関しては日々さまざまな意見が交わされていますが、創作物でAIの力を借りることに関しては「否」とする向きが強いように思います。人間も成長の中で周囲の人々から知見を得たり、学問を通して学習することで知識を増やし、それを出力しているわけですから、生成AIと辿っている道は同じといえるかもしれません。

しかし、珀也さんは「感情のこもっていない作文を生成AIで作ること自体が無意味なのでは」と考えています。生成AIの作文は、あくまで絶対数の多い意見をつないだものであり、少数意見は含まれていないのでは、という疑念を抱いたからです。感情の有無は、人間と生成AIの最も大きな特徴の違いだといえます。珀也さんは作品の中で、作文をAIで生成する人の気持ちを想像し、多角的に論じています。この豊かな想像力が作品上に顕現していることこそが、生身の人間が書く作文の醍醐味であると思います。今後も生成AIはさらなる進化を遂げ、まだ見ぬ境地へ辿り着く可能性を秘めています。

そのとき、生成AIと私たち人間はどのような関係になっているのでしょうか。今後も珀也さんの鋭い目線で、生成AIの進化を注視していきましょう。